

国際関係・比較政治論コース 通算第9回研究会

オーラルヒストリーを活用する政治史の再考： 湾岸危機（1990-91）における日本の非軍事的役割

使用言語 日本語

湾岸戦争では、日本は、多国籍軍に自衛隊を派兵しなかったために、多額の拠出金を支払った。だが、戦後、クウェートによる感謝広告には日本の国旗が掲載されなかったことから、日本は「第二の敗戦」を被ったとさえ、言われてきた。

近年、海部元総理や、新聞広告の際の日本領事館員などのオーラルヒストリーが蓄積されている。本報告は、これらに基づいて、「敗戦史観」を再考する。本報告は、Japan and the Middle East: Foreign Policies and Interdependence (Satoru Nakamura and Steven Wright eds., Palgrave, 2023) の第13章：Nonmilitary Contribution by Japan in the Gulf Crisis 1990-91: Funding, Intelligence Gathering, Releasing Hostages, and Minesweeping に関する検討となる。

日時：2024年7月3日（水） 17:00～18:30

参加無料

場所：**Zoom（オンライン）**

QRコードより事前登録をお願いいたします。



講演者：**中村 覚**（中東政治、国際関係論）

コメンテーター：**Dr. David Adebahr**（神戸大学大学院国際文化化学研究科 講師、アジア太平洋・日本政治）